日立市立山部小学校

Ⅰ　実践

１　研究主題

「互いに認め合い，励まし合い，助け合うことのできる児童の育成」

（１）主題設定の理由

本校は，「ふるさと山部を愛し　心豊かに　たくましく生きる山部っ子の育成　－かしこく，なかよく，たくましく－」を学校教育目標としている。児童の約３割は，祖父母と同じ敷地に居を構え，祖父母と関わりをもつ機会が多い。祖父母との関係などから，地域の人と交流をもつ機会も多い。児童は明るく素直で，高学年児童が低学年児童の面倒をよく見ている。しかし，少人数のため，集団生活の中で甘えが出て，自己中心的な言葉や行動をとってしまう児童もいる。また，本校は，複式学級４クラスでクラス替えもないため，友人関係が崩れてしまうとなかなか修復が難しい。小学校を卒業後は人数の多い中学校へ進学することを考えると，集団の中で，思いやりの心をもって誰とでもなかよく生活できる児童の育成が必要である。

そこで，学校の教育活動全般の体験や交流を通して，本校のめざす児童像である「明るく，思いやりのある子－互いに認め合い，励まし合い，助け合う子－」の育成を目指して本主題を設定した。

（２）研究の内容

ア　各教科，学級活動，道徳，総合的な学習の時間を中心とした全教育活動における人権教育の充実

イ　異学年との交流活動

ウ　保護者・地域の人々との交流活動

エ　教職員自らの人権に関する認識を深めるための研修

２　実践内容

（１）各教科，学級活動，道徳，総合的な学習の時間を中心とした全教育活動における人権教育の充実

ア　総合的な学習の時間の実践

山部のよさをみつけよう－山部のみかん－」をテーマに，校内にあるみかんの木の手入れや観察を行った。また，地域にあるみかん園を訪問して，山部のみかんの歴史やみかんの手入れの仕方などの話を聞くことができた。協力し合ってみかんの手入れをしたり，自分たちの地域について知ったりする体験を通して，互いに助け合う気持ちが培われた。

（３・４年）

イ　人権教育を取り入れた道徳授業の展開

いばらき教育月間の取り組みの１つとして，土曜授業でメディア教室と道徳の授業を行った。専門家から情報に関わるトラブルの事例や回避策を保護者とともに学ぶことができ，情報モラル教育の充実が図られた。また，全学級で人権教育にかかわる内容を取り上げ，道徳の授業を行った。２・３年学級では，「つくえふき」を取り上げ，役割演技を行いながら，誰に対しても公正公平な態度が大切であることを考え合った。保護者の参観もあり，生活の中の様々な場面を見直すよい機会となった。　（全児童，保護者）

ウ　人権教育を考えた学級経営

互いのよさを認め合える場を各学年で設定し取り組んだ。低学年では，友達のよいところを見つけ合い，帰りの会で「今日のきらり」を発表し合った。一人一人のがんばりや優しさ等を見つけ合うことで，自分も他の人も大切にしようとする思いが，いろいろな場面で見られるようになった。

エ　児童集会（ハートフル集会）

運営委員会の児童が中心となって，いじめを防止する意識を高めるための集会を行った。最初に，学級ごとに話し合ったいじめ防止の標語を発表した。次に，運営委員による詩集「いじめのきもち」から問題提起できる詩の朗読を行った。いじめは，自分の身の回りで起こりうることであることや，見て見ぬふりをしていることもいじめであることという発表がされていた。

総合的な学習の時間　山部のみかん

高学年　メディア教室

道徳の授業　２・３年学級

ハートフル集会　詩の朗読

（２）異学年との交流活動（たてわり班活動）

児童を４つのたてわり班に分け，年間を通して様々な集団活動に取り組むことによって，異学年児童相互の親睦を深め，他者への思いやりや助け合う心を養うことを目指した。

ア　ドッジボール大会

異学年集団で活動することにより，互いに協力し合い，仲よくしようとする気持ちを育ててきた。上級生は，下級生がけがをしないようにボールを優しく投げたり，誰もが楽しめるように互いに声をかけ合ったりと，相手を思いやる優しい行動が見られた。

ドッジボール大会

イ　愛校活動

たてわり班ごとに，週１回特別教室を清掃している。上級生は，下級生に掃除分担箇所を指示したり，掃除のやり方を教えたり協力し合って活動することができた。秋は，校庭や正門前の道路の落ち葉を掃く掃除も実施し，学校をきれいにしようとする意識が高まった。

落ち葉掃き

ウ　山部ふれあい運動会

綱引き・リレー・玉入れなどたてわり班対抗の種目があり，班長が中心になって取り組んだ。下級生に対する配慮や上級生に対する感謝の気持ちなど，班が一丸となって取り組む姿が見られた。

たてわり班つなひき

（３）保護者・地域の人々との交流活動

ア　山部ふれあい運動会

来賓・敬老玉手箱には，祖父母や地域に住む高齢者の方々が参加してくださった。プレゼントは，みんなで育てた花と手紙を添えて，全児童で一人一人に手渡した。手をつないだり，話をしたりして，高齢者の方との交流ができた。

山部ふれあい運動会

イ　やまびこフェスティバル（地域ふれあい活動）

地域の方を招いて交流できるように，招待状を書いたり，手紙を届けたりする活動を全児童で行った。当日は，各学年の発表や全校合唱を行った。また，おもしろ理科先生の「石孝弘先生」を招いて，コマを招待客と一緒に作ったり，様々なコマを回したりすることができた。児童とふれあうことができて嬉かったと涙ぐむ方もいて，地域ふれあい活動は大成功であった。

やまびこフェスティバル

ウ　あいさつ運動

「山部っ子交通運動」として春・秋の２回，児童から「安全運転をありがとう」のメッセージを地域のドライバーへ発信している。また，日頃から横断歩道を渡る時は，車を停止させないように，車の往来がないのを確認しながら，押しボタンを押すなど，地域を走るドライバーへの心遣いが身についている。また，「小中合同あいさつ運動」では，朝早くから卒業生が児童たちを笑顔で迎えてくれて，互いに元気なあいさつを交わすことができた。

（４）　教職員自らの人権に関する認識を深めるための研修

「小学生のための人権パート１　思いこみに気づく」のビデオを視聴し研修会を行った。

教師の感想

・「思いこみ」のない子どもたち，「ちがい」を受け入れることのできる子どもたちを育てるためには，教師自ら「思いこみ」や「ちがい」を払拭しなければならないと思った。

・教室の中で，「〇〇さんは，～だから」という思いこみに縛られている部分があると思うので，このような授業は大切だと思う。

３　成果

（１）道徳や総合的な学習の時間，特別活動等を通して，自分の生活を振り返り，自分自身や友達について考える児童が増えている。

（２）異学年集団の活動を通して，互いのよさを認め合う気持ちや励まし合う態度が見られた。高学年児童が，低学年児童を気遣う優しい場面が様々な活動で見られた。

（３）様々な体験活動を通して，高齢者を始め，いろいろな人とふれ合うことができた。そのことによって，相手を思いやったり尊重したりする気持ちが育ってきている。

Ⅱ　今後の課題

小規模校で児童数が少ないため，教師が様々な人権問題について児童に知らせていく必要がある。そのため，教師の人権教育に関する正しい理解と認識を高めるための研修をより充実させ，人権教育の啓発に取り組んでいけるようにしていきたい。